

# 不登校及び学校・家庭での不適応を抱える児童生徒に対する 民間施設の効果的な支援に関する研究

## Research on effective intervention of the private mental support center for adolescence

松添 万里子 (Mariko Matsuzoe) 指導：大月 友

【問題と目的】平成29年度の小・中学生の不登校児童生徒数は144,031人で過去最多を記録した。前年度比は7.7%の増加であり、平成28年度は小学校208人に1人、中学校74人に1人だったのに対し、平成29年度は小学校185人に1人、中学校31人に1人という割合であった。また、欠席30日以上の不登校児童生徒数に注目しても、小学校は前年度比15.1%の増加、中学校は前年度比5.6%の増加であった。近年、増加の一途を辿っている。不登校の要因は、学校での人間関係や家庭での状況など複合的である。

このような不登校を抱える児童生徒の相談・指導等を受ける場として、「公的機関」と「民間機関」がある。平成29年2月に施行された教育機会確保法において、不登校の児童生徒等に対する教育機会の確保等が定められ、「学校以外の場合」、つまり、これまで学校復帰を大前提としていたが、不登校児童生徒のフリースクールなどの民間団体等で学ぶ児童生徒の支援を目的とし、休養も認めている。

不登校についての研究は多くされている。それは、治療者や支援者の治療や対応に関する研究などで、学校の教師や公的機関での治療者・支援者の支援方法が中心であった。また、民間の団体・施設等では、「フリースクール」に関する研究であり、支援に関する研究が中心である。

しかしながら、民間の団体・施設等における不登校及び学校不登校等を抱える児童生徒の状態像を明らかにし、その状態像に対して、いつ、どのように支援者が関わった結果、それが改善したかについての研究は見当たらなかった。教育機会確保法の施行を背景に、今後、民間の団体・施設等への需要が高まることは容易に予想できる。そのためにも民間の団体・施設等における不登校及び学校不登校を抱える児童生徒の改善事例を対象とし、その改善を規定する支援者並びに家庭で子どもを支える保護者を含めての関わりを検討することを目的とする。

【方法】対象：不登校及び学校・家庭での不適応を抱える子どもや保護者の相談、適応、療育、就労などの支援を行っている民間施設の支援者8名。調査材料：インタビュー時点の主訴に対して改善が見られた不登校及び学校・家庭での不適応を抱えた50事例について、子どもの状態像尺度（29項目）、保護者の関わり尺度（19項目）、支援者の関わり尺度（28項目）を4件法で作成した。手続き：相談カルテをもとに、主な支援者を中心に聞き取り調査をし、不明点等

は合議をしてもらい聞き取り調査を行った。分析方法：子どもの状態像、保護者や支援者の関わりは主因子法（バリマックス回転）による因子分析を行った。そして、各因子について、子どもの状態像は分散分析、多重比較を行い、保護者や支援者の関わりは対応のあるt検定を行った。そして、子どもの状態像の各因子に対して、保護者や支援者の関わりの各因子がどのような関連性があるのかについて、多変量解析のステップワイズ法で分析した。

【結果】子どもの状態像は5因子、保護者の関わりは4因子、支援者の関わりは6因子になった。子どもの状態像の各因子はいずれも改善しており、それに対して前期・後期・全期間に、保護者と支援者が行っていた関わりの関連性は、各状態像や時期によって異なっていた。Tableは全期間における保護者や支援者の関わりの関連性を示すものである。

【考察】保護者の関わりの平均得点は有意差があることから全て大切であり、また、支援者の関わりは、全期間を通して、子どもの生活空間を広げ、人間関係を促進させ、安心できる居場所を提供するとともに、自己肯定感、自己有用感、自己効力感を持たせる関わりと、後期にかけて個別支援を促進させる関わりがあると示唆される。

本研究では、民間施設に在籍する不登校及び学校・家庭での不適応を抱える子どもの状態像と子どもへの保護者と支援者の効果的な関わりを明らかにしたものになったと言えよう。そして、それらは子どもの状態像の改善だけでなく、子どもたちの社会で生きていく力を育成する関わりであるとも言えよう。「学校以外の場合」での学びも保障されるようになり、民間施設の支援者や保護者にとって、子どもの状態を改善し、登校及び学校・家庭での適応を高め、改善するための支援方法を示唆するものとなったと言えよう。

Table 子どもの状態像を従属変数とする重回帰分析結果（強制投入法）

	登校行動	学業の遅れ	家族・攻撃性の課題	対人不安緊張・感情の不安表出	友人関係積極性
	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$	$\beta$
保護者	1.安定的自立促進	-.34*	-	-	-
	2.肯定的関わり	-	-	-.47**	.34*
	3.家族・親子関係の促進	-	-	-	-
	4.社会参加準備	.29†	-	-	-
支援者	1.肯定的関わり・存在受容	-	-	-	-
	2.主体性・主体性の育成	-	-	-	-.38*
	3.キャリア支援	-	-.30*	-	-
	4.仲間関係促進	-	-.30*	-.27*	-
	5.楽しさ体験の共有	-	-	-	-
	6.登校・就労促進	-	-	-	-
調整済みR <sup>2</sup>		.06†	.14*	.15*	.20*

\*\* $p<.01$  \* $p<.05$  † $p<.10$